

## 正月は・・・

大森 海太

お正月にみんなで集まって、お屠蘇を飲んでワイワイ盛り上がり上がっていると、なかに一人あまのじゃくがいて低い声で「正月は冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」と呟く。とたんにシーンとなって、座はしらけてしまう。

子供のマンガでおなじみの一休さんの歌を嘶のマクラにしたが、昨年末の会でキヨコさんに先を越されたので二番煎じ。

話かわるが散歩の途中、近所の樹齢数百年というような巨木の前にたたずむと、畏敬の念にかられる。それにくらべれば私などやっそここまで来たけれど、どんなに頑張ってもあと二十年はもたない。百にもならぬうちにこの世をオイトムするだろう。果敢ないものだ。

ところでこれからどんな最期が待っているのだろうか。最も望ましいのはピンピンコロリ。前の晩まで元気でみんなとお酒を飲んでいたのに、朝起きたら冷たくなっていた、なんていうのがベストでしょうか。

いちばん多いと思われるのが病気によるもの。オサムさんによると長患いなら病院でなくて自宅で亡くなるのがオススメとのことだが、それにはかかりつけの先生との良好な関係が条件のようだ。

病気にもいろいろあるが、整骨院の先生から誤嚥性肺炎だけには気をつけてください、苦しいらしいですからねと言われた（新聞の死亡欄でもよく見かける）。私などセカセカ飲み食いするほうなので、とくに注意しなければいけない。

最後に残るのは老衰。天寿を全うしてこれこそ至高と考えていたが、最近そうも思えなくなってきた。だって施設に入れられてオシメを当てられて寝たきりで何年も、なんて楽しくないんじゃないでしょうか。

まあどつちみち自分で決められることじゃないし、適当なところでポックリ逝くにはあまり摂生しないほうがいいんじゃないか、などと勝手な理屈でもラッピー。

こちらこちら、このような問題で深刻に悩んでおられる方も居るのだから、今年はふざけてばかりしないで少しは真面目なことも書け、と叱られそうである。